

和歌山県田辺市

天神崎の磯観察

(ウミウシを中心として)

2019年

(1月7日～12月25日)



ハマタニミドリガイ

2019. 10. 27 天神崎 12mm



2019. 10. 27

田辺市・天神崎
ハダカモウミウシ科 s p 6 mm

増田泰久

はじめに

2019年もいよいよ大詰めになってきた。この年1月から毎月1~2回、田辺市天神崎海岸のウミウシの観察を長靴の範囲で続けてきた。まとめにあたって再度、文章や種名、観察したときの写真記録の確認など、誤記載がないかを見直した。結果一部訂正・付け加えを行っている。

天神崎は長靴での磯観察者には必ずしも観察場所として適しているわけではない。広いテラスの上にはほん浅い（深さ5cmほどの）タイドプールは数多くあるものの環境が似ており、またテラスに割り込んでいる1本の断層に沿ったタイドプールもあるが、観察できる範囲が少ない。テラスの先が急に落ち込み、長靴の範囲では観察は出来ない。

ウミウシは干潮時には藻の間や転石の裏側に隠れている場合が多い。しかも餌となるものが近くにあればなお良い。卵塊があればその近くを探せば見付かることが多い。餌は、海藻に始まり無脊椎動物のヒドロ虫・海綿の仲間・ホヤの仲間等多種に及ぶが、種によって餌は偏る。天神崎の磯には、この餌となる種・量が少ないようと思われる。加太の磯での観察より小さな個体が多かったのは、少ない餌ではないかと思慮する。しかし、1年間で観察出来た種は46種に及び、この条件下でこれだけの種が見付かるとは予期していなかった。

天神崎では年間を通してハマタニミドリガイはテラスのタイドプールで観察できる。後で分かったことであるが、イズミミドリガイ・ハマタニミドリガイはテラスのほん浅いタイドプールの軽い泥の中に潜っていることが多い。また、1度しか見付からなかつた種は22種に及んだが、各々10mm未満の小さな個体が多く見落とした可能性もある。

磯でみた幾つかの様子を述べてみる。

◎ミスガイ…殻長35mm、産卵のため3月から6月の潮時干上がった砂地に半ば砂に潜った状態で見付かる。すぐ横幅6mm・直径50mm程の白い卵塊が見付かり、近くの砂の中から見付かることが多い。近くにミズヒキゴカイの薄いピンクや赤い糸状の鰓が見える。

◎ブドウガイ…加太のブドウガイとの違いは、濃緑色の軟体部が白っぽい個体が多い。

◎オカダウミウシ…元々大きな種ではないが、天神崎では2mm、3mmであった。ここでは餌となるウズマキゴカイは直径1mmと小さい。

◎セトイロウミウシ…10月、転石の裏からシロフシエラガイを見付けたので、写真に納めようとしていた折り、近くで2mm大の淡紫色の物体を見付けた、これを写真に納め拡大するとウミウシだった。よく見付けたものだと自分なりに感心した。

◎アオクシエラウミウシ…9月、この日、本当にウミウシは見付からず今日はこれで終わりかと思っていたときに、石の裏から被覆性の青いカイメンが出てきた。よく観察していると同色の触角様の物が見付かったので、爪で掘り起こすように採りだし6mmの本種を見付けた。同色で小さく、背景に溶け込んで見過ごす所であった。

◎ウスイロウミウシ…4月、水道の転石下より3mm大の小さな個体でシロウミウシに似ているが、何か違うと感じ、持ち帰り調べなおした。

◎ハダカモウミウシ科 sp…10月後半、テラス先端近くの浅い畳み半畳位のタイドプールにホソジュズモが繁茂していた。その下で黒い8mmのアリモウミウシが採集できた。更に観察すると、ホソジュズモの根元で同色の小さく動く5mm・6mmの2個体の本種を採集した。

◎天神崎でも大きい種が1種も見付からなかつたわけではない。

200mmアメフラシ（4月）・95mmクモガタウミウシ（6月）・115mmオオツヅレウミウシ（7月）・55mmアマクサウミウシ（5月）などを記録している。

最後に今年1年の出現種並びに出現状況一覧を載せておく。

2019年12月

和歌山市新生町8-13

増田泰久

田辺市 天神崎磯観察

1月

2019. 1. 7 干潮 12:36 潮位 79 cm

ガンガラの会 新年会参加のため少し早く田辺まで出、天神崎の磯に出る。テラスの極めて浅いタイドプールの中を、丁寧に観察していく。ここの海岸の基礎的な岩石は、小さな小石の混ざった礫岩が中心で、裏面になかなかヒドロ虫やイタボヤ等の動物が着きにくい。今日は天神崎の丸山島より右手を中心に観察する。

9 mm ブドウガイ、5・8 mm ハマタニミドリガイ、12 mm セトミドリガイ、4 mm アリモウミウシ(多数)、3 mm オカダウミウシ、12 mm キヌハダモドキ、7 mm キイロクシエラウミウシ、6.5 mm オオツヅレウミウシ、18 mm カクレカザンウミウシ、12・10 mm ツヅレウミウシ科 sp 1



当時の丸山島の磯



カクレカザンウミウシ



ツヅレウミウシ科 sp 1

2019. 1. 8 干潮 13:07 潮位 77 cm

この日の帰路、時を見計らって天神崎に寄り、丸山島より左手を中心とする。

16 mm ブドウガイ(多数)、5 mm ハマタニミドリガイ、10 mm イズミミドリガイ、4 mm アリモウミウシ(多数)、8 mm アカボシツバメガイ、70 mm アメフラシ、30・45 mm クロスジアメフラシ(多数)、3 mm オカダウミウシ、8 mm シロウミウシ、70 mm オオツヅレウミウシ、6.5 mm クモガタウミウシ、25 mm セトミノウミウシ



天神崎周辺図



ハマタニミドリガイ



イズミミドリガイ



アカボシツバメガイ



クロスジアメフラシ



セトミノウミウシ

田辺市・天神崎磯観察

2月

増田 泰久

2019. 2. 10 黒潮貝類談話会総会への出席をかねて、天神崎に寄ることにした。午前中の1時間は丸山島の左手側を観察し、帰りに右手側を観察することとした。

午前中は、満潮時から2時間ほどの潮の引き具合が悪く、浅いタイドプールを中心として行う。1月に観察したときより、緑藻が少なくなつており岩盤の地が見えるタイドプールが目立つ。幸うじて緑藻の残っているタイドプールを中心に観察していくと、ブドウガイ・アリモウミウシ・ハマタニミドリガイが観察できる。特にハマタニミドリガイは大変多くの個体が観察できた。

午後からは3時過ぎとなり潮の引きがよく、転石の裏を中心に観察することとした。タイドプールから20 mm ブドウガイ、6 mm アリモウミウシ、10 mm ハマタニミドリガイ、転石の裏側から80 mm アメフラシ、40 mm アマクサアメフラシ、8 mm キヌハダモドキ、3 mm オカダウミウシ、12・7 mm キイロクシエラウミウシ、32 mm ヤマトウミウシ、14 mm マダラウミウシ、8・5 mm シラヒメウミウシ、7 mm コマユミノウミウシ を観察できた。



当時の磯



アリモウミウシ



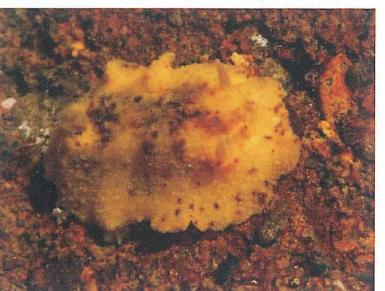
ハマタニミドリガイ



アマクサアメフラシ



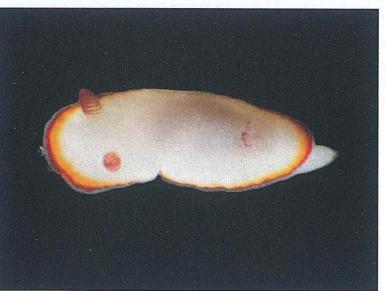
キヌハダモドキ



ヤマトウミウシ



マダラウミウシ



シラヒメウミウシ



コマユミノウミウシ

増田泰久

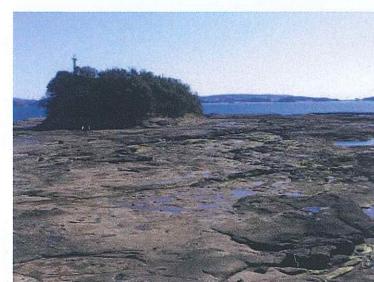
2019. 3. 11 干潮14:25 潮位 30cm

風が強く、タイドプールにも細波が立つ。25mmブドウガイ、7mmハマタニミドリガイ、11mmイズミミドリガイ、7mmアリモウミウシ、50mmアメフラシ、110mmアマクサアメフラシ、45mmクロスジアメフラシ、11mmネコジタウミウシ、2mmオカダウミウシ、9mmキイロクシエラウミウシ

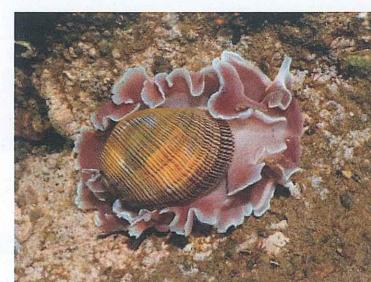
2019. 3. 24 干潮14:04 潮位 15cm

空模様は良いのだが、気温も下がり寒の戻りのようである。風も大変強く帽子をとばされた。潮の引きは良いで、いつものように浅いタイドプールからの観察を行う。ブドウガイ・アリモウミウシは多く観られるが、ハマタニミドリガイはぐっと少なくなり今回は、3個体のみであった。しかし、それらの種は小さい。断層での割れ目で潮が引いてしまった礫場でミスガイが見付かった。ぼちぼち産卵期に入ったか。この割れ目に出来るタイドプールのキイロフシエラウミウシ・シラユキウミウシ・ネコジタウミウシ・サラサウミウシ等が観察されたが、いずれも加太で観察されるウミウシに比べ小型である。

60mmミスガイ、22mmブドウガイ、6mmハマタニミドリガイ、最大7mmアリモウミウシ、135mmアメフラシ、150mmアマクサアメフラシ、15mmキヌハダモドキ、4mmヒメキヌハダウミウシ、4mmオカダウミウシ、20mmネコジタウミウシ、8mmキイロクシエラウミウシ、75mmクモガタウミウシ、15mmサラサウミウシ、4~7mm(3個体)シラヒメウミウシ



当日の磯



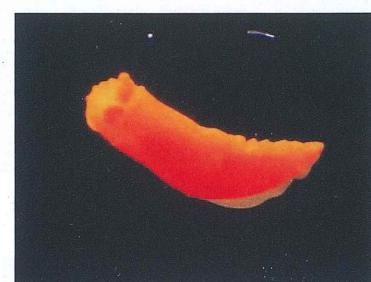
ミスガイ



ネコジタウミウシ



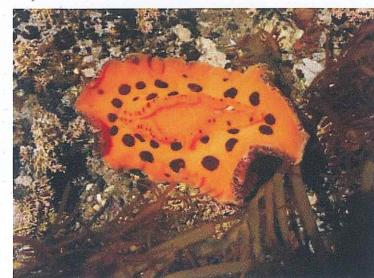
キヌハダモドキ



ヒメキヌハダウミウシ



キイロクシエラウミウシ



クモガタウミウシ



サラサウミウシ



シラヒメウミウシ

増田泰久

2019. 4. 6 干潮12:34 潮位24cm

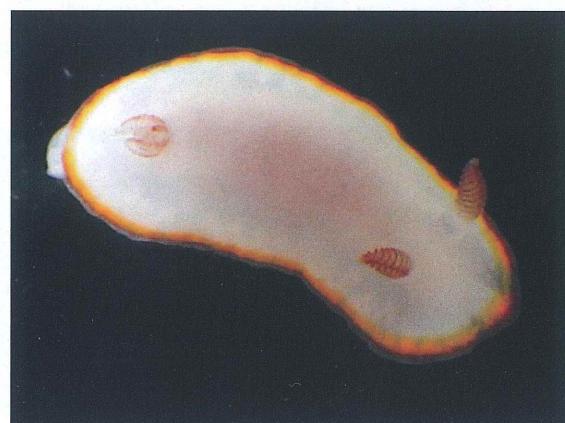
さすがに春休みの土曜日で、磯には釣り客と共に子ども達がやってきている。今日は風も緩やかで、磯遊びにはもってこいの日和である。この磯の転石は素手では大変危険である。小さな礫が手のひらを傷つける。今日もまた止血しながらの観察となった。

浅いタイドプールには今まで観察したアリモウミウシ・ハマタニミドリガイ・イズミミドリガイを見付けるが、なんだか小さくなっているようである。ミスガイの産卵を観察し写真に納める。観察種は、ブドウガイ、60mmミスガイと卵塊、3mmアリモウミウシ、最大7mmハマタニミドリガイ、最大9mmイズミミドリガイ、200mmアメフラシ、最大45mmミドリアメフラシ、15mmコネコウミウシ、2mmオカダウミウシ、3mmウスイロウミウシ、9mmシラヒメウミウシ、11mmシラユキウミウシ、20mmホンクロシタナシウミウシ、30mmマダラウミウシの観察であった。

シラユキウミウシとシロユキウミウシの形態・色彩の差異について観察結果から考えると下記のような・差異点が見えてきた。

	触角	鰓	背面の周辺	体色
シラヒメウミウシ	赤色	赤色	外側は赤次いで黄	白
シラユキウミウシ	橙黄色	白(先端が黄)	黄	白(橙の斑点)

体の伸びはシラヒメウミウシはやや硬いが、シラユキウミウシは柔らかく伸びる。



シラヒメウミウシ



シラユキウミウシ

当日観察のウミウシ他、



当日の磯



産卵中のミスガイ



ホンクロシタナシウミウシ

増田泰久

2019.5.5 晴天 こどもの日、白浜の暦は干潮12:08 潮位14cm
さすが天神崎の磯はこども連れが多く、タイドプールの魚採集で騒いでいた。

テラスの浅いタイドプールでは、アリモウミウシが消え、ハマタニミドリガイがやたらと多く、その中にイズミミドリガイが混じっているようであった。しかしイズミミドリガイの方が大きく成長していた。他に多く見かけられたのは、産卵のため集まっていたミスガイが10個体・卵塊も3箇所で観られた。また転石の下並びに岩礁の側面の棚にクモガタウミウシ5個体があった。今回アマクサウミウシが転石の裏から離れ落ちてきた。にもかかわらず、なかなか海水に入れても体を縮めたまま伸ばしてこない。クモガタウミウシは石を捲った折りに石から離れ橙色の体の下面を出すが、さほど時間をかけず動き始めるのとは大きく違っていた。

今日の観察種 裸長30mmミスガイと卵塊、13mmブドウガイ、8mmハマタニミドリガイ、15mmイズミミドリガイ、120mmアメフラン、65mmアマクサアメフラン、15mmキヌハダモドキ、7mmヒメキヌハダウミウシ、18mmキイロクシエラウミウシ、60~80mmクモガタウミウシ、18mmツヅレウミウシ科 sp 2、12mmツヅレウミウシ sp 3、55mmアマクサウミウシ



当日の磯



産卵中のミスガイ



ハマタニミドリガイ



イズミミドリガイ



キンスハダモドキ



ツヅレウミウシ科 sp 2



ツヅレウミウシ科 sp 3



アマクサウミウシ

同 鰓部

増田泰久

2019.6.2 干潮11:10 潮位21cm (白浜の潮位)

天神崎は午後より小雨の天気予報だが押して出かけた。磯に着くと天神崎の自然を守る会の磯観察会と重なっていた。こどもを含め参加者数約70名。潮は良く引いている。いつものように長靴で浅いタイドプールより観察を開始する。ミスガイの産卵時期も最盛期か、成貝は14個、卵塊は11個を確認する。また、今まで観察できたアリモウミウシは確認できず。観察会の参加者には、150mmのアメフラン・90mmクモガタウミウシ(多数)を採集されていた。

殻長35mmミスガイ、8mmハマタニミドリガイ(多数)、17mmイズミミドリガイ、150mmアメフラン4個と卵塊、40mmウミクロウと卵塊、15mmキヌハダモドキ3個体、15mmキイロクシエラウミウシ5個体、95mmクモガタウミウシ、50mmアマクサウミウシ、23mmマダラウミウシを観察採集した。

2019.6.19 干潮13:02 潮位15cm

磯は静かである。本日、バスでナショナルトラスト地を見学のための観光客が多い。

4mmブドウガイ、殻長30mm全長60mmミスガイと卵塊、12mmハマタニミドリガイ、14mmイズミミドリガイ、2mmオカダウミウシ、80mmオオツヅレウミウシ、7mmシラヒメウミウシ、38mmマダラウミウシ

6月2日の観察より



ミスガイと卵塊



ウミクロウ



キイロクシエラウミウシ



クモガタウミウシ



アマクサウミウシ



マダラウミウシ

6月19日の観察より



当日の磯



オオツヅレウミウシ



同 裏側

増田 泰久

2019. 7. 5 潮位 干潮 13:43 潮位 2 cm (白浜での潮位)

予報では一日曇りと言うことだが、出かけることとした。南部あたりまでは天候も良かったが、このあたりから霧雨が少し降り始め、天神崎あたりではワイパーを動かし始めるような空模様である。磯に出る頃は雨傘を差しながら、テラスの浅いタイドプールの観察となった。最初のタイドプールでは何も見付からず、この時期のタイドプールの海水温の上昇が甚だしく棲息が難しかったのではと考えたが、次ぎのタイドプールからブドウガイが見付かり、やがて小さなハマタニミドリガイが、次いで別のタイドプールからやや大きなハマタニミドリガイ、イズミミドリガイが見付かった。次にミスガイの産卵場所に出かけたが、ミスガイの姿・卵塊は確認できなかった。産卵の時期が過ぎたのであろう。その後雨がやみ、薄日の差す観察になったがウミウシの仲間がなかなか見付からない。この時期の特徴なのか、観察した種・観察個体は、極めて少ない。やつと、25 mmヒメリベ、13 m mキロクシエラウミウシ、15 mmオトメミドリガイ(色彩変異 色が抜けている)、磯の波打ち際近く 110・115 mmオオツヅレウミウシ。テラスのタイドプールから 13 mmブドウガイ、12 mmハマタニミドリガイ、14 mmイズミミドリガイが今日の観察であった。



当時の磯



ブドウガイ



ハマタニミドリガイ



イズミミドリガイ



オトメミドリガイ



同横面



キロクシエラウミウシ



オオツヅレウミウシ



ヒメリベ

増田 泰久

2019. 8. 4 干潮 14:12 潮位 19 cm (白浜調べ)

干潮の時間が遅いので、ゆっくりと出発できた。天神崎到着を 12:30、昼食を採り 13:00 よりの観察とした。潮は良く引いておりテラスの浅い多くのタイドプールが見られる。タイドプールの海水は太陽に照らされて、お湯のように暖かい。細く小さな緑藻が生え、躄つたばかりの小さなイソスジエビやコビトウラウズ・アラレタマキビ・ウミニナの幼貝が数多く観察できる。この湯のように温かいタイドプールでハマタニミドリガイ、イズミミドリガイが見付かった。ただ、ハマタニミドリガイは幾ら探しても 6 mm の 1 個体だけであり、別のタイドプールよりイズミミドリガイが 2 個体をようやく見付けることができた。今まで観いたタイドプールには何らかのウミウシを見付けられたが、この時期ウミウシの居ないプールもあり、どのタイドプールを観察するかが観察・採集の差となる。今回の観察では、ブドウガイが見付からなかった。

6 mm ハマタニミドリガイ、14・13 mm イズミミドリガイ、35 mm カメノコフシエラガイ、19 mm キヌハダモドキ



丸山島のテラス



テラスのタイドプール



断層に沿ったタイドプール



ハマタニミドリガイ



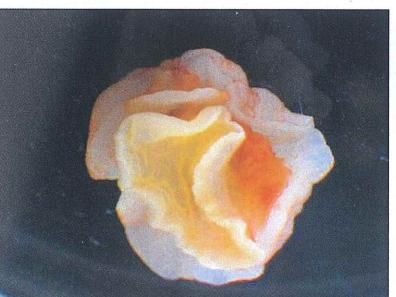
イズミミドリガイ



キヌハダモドキ



カメノコフシエラガイ



同 裏面



同 破損した貝殻

カメノコフシエラガイは、持ち帰った時には既に弱っていて 2 日後にはとろけていた。良く見ると管瓶の下に貝殻があったので、破損していたが写真に納めた。

増田 泰久

2019. 9. 1 本日の干潮 13:09 潮位 20 cm (白浜調べ)

一昨日は激しい雨も降り特にテラスの浅いタイドプールに、塩分濃度に影響を与える、そこに棲む生き物に影響を与えないかが心配であった。特に貝殻を持たない裸のウミウシの仲間に影響が心配している。しかし、実際テラスのタイドプールを覗いてみると、今回は8 mm～11 mmのハマタニミドリガイが見受けられた。それも先月は1個体のみの観察だったのが、今回多数見付かった。また12 mmイズミミドリガイ1個体が見付かり、天神崎のテラスにある浅いタイドプールでは、本年1月より9月までこの2種が途切れず観察している。

今回の観察では、他に18 mmツヅレウミウシの観察もすることが出来たが、他にウミウシの仲間の観察は出来なかった。天神崎の磯部では、ウミウシの餌となるカイメン・イソギンチャクの仲間・ヒドロ虫の仲間・ホヤの仲間が加太の磯に比べ少ないように思われる。これは磯部を成す岩石と関係していると思われる。このタイドプールにブドウガイ・アリモウミウシがいつ出現するか、興味のあるところである。

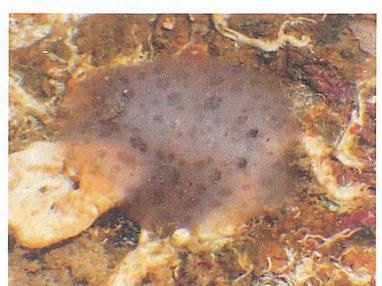
その他として、直径100 mmの紫色の螺旋状のウミリボンと径35 mmの黄色い紐状の螺旋状の卵塊を観察しているので、見付からなかつにせよ他のウミウシのいることが分かる。



磯先より丸山島を臨む



ハマタニミドリガイ



ツヅレウミウシ



当日の磯



イズミミドリガイ



アオクシエラウミウシ

増田 泰久

天神崎を調べ初めて10ヶ月がたつ。この月は2度の観察を行った。久しぶりにブドウガイ・アリモウミウシに出会う。アリモウミウシは立派な成体で、背側突起の先端も赤く染まっている。アリモウミウシは、テラスの先の浅いタイドプールの中のホソジュズモの林の中の根元近くで、黒いものがあったので何かなと思い採集したところアリモウミウシであった。また、この緑藻の中に偶然何か動く物を見付け採集したところ、ハダカモウミウシ科 sp を2個体採集した。ハマタニミドリガイは、個体数も多く良く動き回っているが、イズミミドリガイは、僅かな泥の中にもぐってしまう。

2019. 10. 14 干潮 12:00 潮位 60 cm

9 mmブドウガイ、13 mmシロフシエラガイ、13 mmハマタニミドリガイ、9 mmイズミミドリガイ、2 mmセトイロウミウシ、6 mmシロウミウシ、6 mmウスイロウミウシ

2019. 10. 27 干潮 11:02 潮位 46 cm

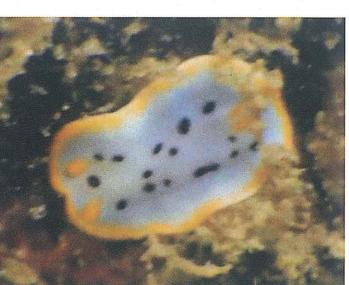
11 mmブドウガイ、8 mmアリモウミウシ、6 mmハダカモウミウシ科 sp 、12 mmハマタニミドリガイ、6 mmイズミミドリガイ、85 mmオオツヅレウミウシ、4 mmシラユキウミウシ



14日… シロフシエラガイ



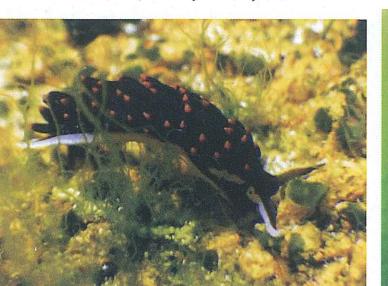
セトイロウミウシ



シロウミウシ



ウスイロウミウシ



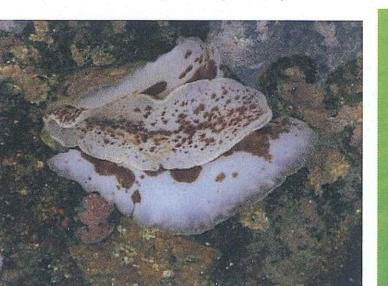
27日… アリモウミウシ



ハダカモウミウシ科 sp



オオツヅレウミウシ



同 腹面



シラユキウミウシ

増田泰久

2019. 11. 9 干潮 9:55 潮位 70 cm (白浜調べ)

少し風があり細波が立つが、絶好の秋晴れ。天神崎には釣りを楽しむ人達が自分の場所をえて、釣り糸を出している。先月ホソジュズモの中からアリモウミウシ、ハダカモウミウシ科 s p の見付かった場所を再度狙ったが、場所は見付かったものの、海水が蒸発したのかタイドプールの大きさは1/3に縮まってしまい、其処からは何も観察できなかった。

今回アリモウミウシは、7 mm背側突起の先端が白の個体が幾つか見付かった。これから来年4・5月までテラスに於いて観察を続けることが出来るだろう。

今回の観察は、最大8 mmブドウガイ (多)、7 mmハマタニミドリガイ (多)、6 mmイズミミドリガイ、7 mmアリモウミウシ、7 mmシロフシエラガイ、5 mmヒメキヌハダウミウシ、4 mmシラヒメウミウシ、90 mmクモガタウミウシ、7 mmツヅレウミウシ科 s p 3



当時の磯



ブドウガイ



ハマタニミドリガイ



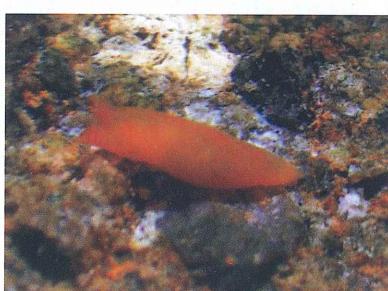
イズミミドリガイ



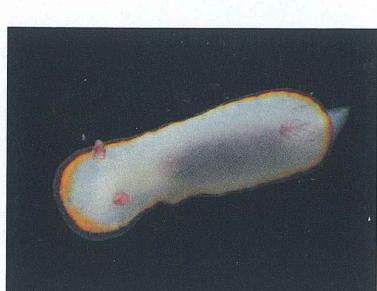
アリモウミウシ



シロフシエラガイ



ヒメキヌハダウミウシ



シラヒメウミウシ



ツヅレウミウシ科 s p 3

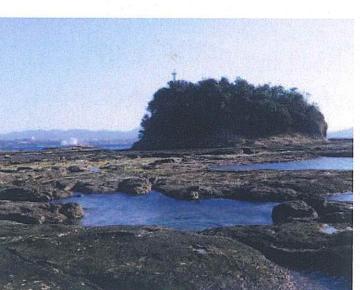
増田泰久

12月は気候穏やかな観察には優しい月であったが、時季が時季だけに潮の引きが悪く、長靴での観察はなかなか難しかった。しかし仮説、「ハマタニミドリガイ・イズミミドリガイは年間を通してこの磯で観察できる」を調べるため、一度目の観察12日に見付からず、2回目25日に観察を行ったが、観察できなかつた事は残念である。尚、この時期テラスには満潮時海水に隠れてしまうよう、この日テラスは濡れていた。テラスのタイドプールにはブドウガイ・ハマタニミドリガイ・アリモウミウシが多く観察される。

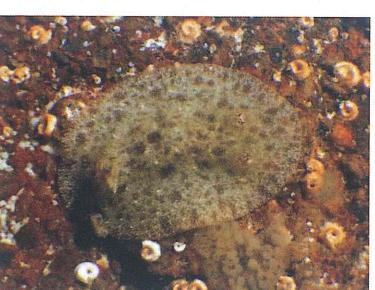
また、25日の観察では、テラスのタイドプールから細い緑藻の間から木屑のように3 mmクロヒメウミウシが観察され、断層に沿ったタイドプールの転石の裏から、3 mmのフジナミウミウシのおそらく幼体を観察することが出来た。

2019. 12. 12 干潮 11:45 潮位 81 cm (白浜調べ)

13 mmブドウガイ、5 mmハマタニミドリガイ、4 mmアリモウミウシ、17 mmミナミヒヨウモンウミウシ、12 mmシラヒメウミウシ、50 mmオオツヅレウミウシ



当時の磯



ミナミヒヨウモンウミウシ

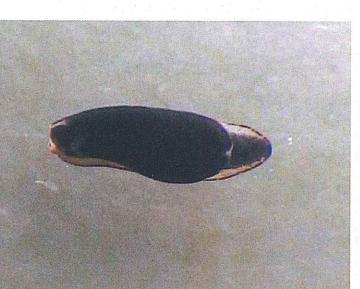


シラヒメウミウシ

2019. 12. 25 干潮 11:09 潮位 82 cm (白浜調べ)

今回見付かったウズムシウミウシ科のクロヒメウミウシは、テラスの緑藻の中から黒い海藻の欠片のような感じで観察された。

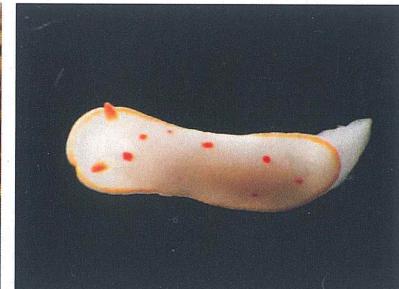
3 mmクロヒメウミウシ、15 mmブドウガイ、6 mmハマタニミドリガイ、6 mmアリモウミウシ、11 mmキヌハダモドキ、3 mmフジナミウミウシ、6 mmシラヒメウミウシ、7 mmシラユキウミウシ



クロヒメウミウシ



フジナミウミウシ



シラユキウミウシ

2019年 田辺市天神崎 ウミウシ出現目録

- ウズムシウミウシ科
Metaruncina setoensis (Baba, 1954)
- クロヒメウミウシ 2019.12.25
- ミスガイ科
Hydatina zonata
(Solander in Lightfoot, 1786)
- ミスガイ 2019.3.24
- ブドウガイ科
Haminoea japonica Pilsbry, 1895
- ブドウガイ 2019.1.07
- カノコキセワタ科
Chelidonura julvpunctata (Baba, 1938)
- アカボシツバメガイ 2019.1.08
- アメフラシ科
Aplysia kurodai Baba, 1937
- アメフラシ 2019.2.10
- Aplysia juriana* Quoy&Gaimard, 1832
- アマクサアメフラシ 2019.2.10
- Aplysia oculifera* (A. Adams&Reeve, 1850)
- ミドリアメフラシ 2019.4.06
- Aplysia parvula* Guilding in Murch, 1863
- クロヘリアメフラシ 2019.3.11
- Styloheilus striatus*
(Quoy&Gaimard, 1832)
- クロスジアメフラシ 2019.1.08
- チドリミドリガイ科
Elysia hamatanii Baba, 1957
- ハマタニミドリガイ 2019.1.07
- Elysia nigrocinctata* (Baba, 1957)
- イズミミドリガイ 2019.1.07
- Elisya flava* Verrill, 1901
- オトメミドリガイ 2019.7.05
- ハダカモウミウシ科
Ercolania boodleae (Baba, 1938)
- アリモウミウシ 2019.1.07
- Limapontiidae* sp
- ハダカモウミウシ科 s p 2019.10.27
- カメノコフシエラガイ科
Berthella stellata (Risso, 1826)
- シロフシエラガイ 2019.10.14
- Pleurobranchus peronii* Cuvier, 1804
- カメノコフシエラガイ 2019.8.04
- ウミフクロウ科
Pleurobranchaea japonica Thiele, 1925
- ウミフクロウ 2019.6.02
- ネコジタウミウシ科
Goniodoris castanea Alder&Hancock, 1845
- ネコジタウミウシ 2019.3.11
- Goniodoris joubini* Risbec, 1928
- コネコウミウシ 2019.4.06
- キヌハダウミウシ科
Gymnodoris citrine (Bergh, 1875)
- キヌハダモドキ 2019.1.07
- Gymnodoris subornata* Baba, 1960
- ヒメキヌハダウミウシ 2019.3.24
- オカダウミウシ科
Vayssierea felis (Collingwood, 1881)
- オカダウミウシ 2019.1.07
- ドーリス科
Doriopsis gr. anulose Pease, 1860
- キイロクシエラウミウシ 2019.2.10
- Doriopsis pectin* Collingwood, 1881
- アオクシエラウミウシ 2019.9.15
- Homoiodoris japonica* Bergh, 1881
- ヤマトウミウシ 2019.2.10
- ツヅレウミウシ科
Sebadoris nubilosa (Pease, 1871)
- ツヅレウミウシ 2019.9.01
- Sebadoris fragilis* (Alder&Hancock, 1864)
- オオツヅレウミウシ 2019.1.07
- Jorunna sp. 1 aff. pantherina* (Angas, 1864)
- ミナミヒヨウモンウミウシ 2019.12.12

Sclerodoris apiculata

- (Alder&Hancock, 1864)
- カクレカンザンウミウシ 2019.1.07
- Platydoris silioti* (Alder&Hancock, 1864)
- クモガタウミウシ 2019.3.24
- Discodorididae* sp 1
- ツヅレウミウシ科 s p 1 2019.1.7
- Discodorididae* sp 2
- ツヅレウミウシ科 s p 2 2019.5.05
- Discodorididae* sp 3
- ツヅレウミウシ科 s p 3 2019.5.05
- アマクサウミウシ科
Actinocyclus papillatus (Bergh, 1878)
- アマクサウミウシ 2019.5.05
- イロウミウシ科
Goniobranchus tinctorius
(Ruppell&Leuckart, 1828)
- サラサウミウシ 2019.3.24
- Goniobranchus fidelis* (Helaart, 1858)
- フジナミウミウシ 2019.12.25
- Goniobranchus orientalis* (Rudman, 1983)
- シロウミウシ 2019.1.08
- Goniobranchus setoensis* (Baba, 1938)
- セトイロウミウシ 2019.10.14
- Goniobranchus sinensis* (Rudman, 1985)
- シラヒメウミウシ 2019.2.10
- Hypselodoris placida* (Baba, 1949)
- ウスイロウミウシ 2019.4.06
- Verconia nivalis* Baba, 1937
- シラユキウミウシ 2019.4.06
- クロシタナシウミウシ科
Dendrodoris fumata
(Ruppell&Leuckart, 1831)
- マダラウミウシ 2019.2.10
- Dendrodoris nigra* (Stimpson, 1855)
- ホンクロシタナシウミウシ 2019.4.06

○ メリベウミウシ科

- Melibe papillosa* (de Filippi, 1867)
- ヒメメリベ 2019.7.05
- ゴシキミノウミウシ科
Trinchesia pupillae (Baba, 1961)
- コマユミノウミウシ 2019.2.10
- ヨツスジミノウミウシ科
Setoeois inconspicua (Baba, 1938)
- セトミノウミウシ 2019.1.08

表記は学名・和名に続いての年月日は天神崎で初めて観察した日とした。

参考文献

- 生物学御研究所 相模湾産後鰓類図譜 岩波書店 1949
- 生物学御研究所 相模湾産後鰓類図譜 補遺 岩波書店 1955
- 奥谷喬司編著 日本近海産貝類図鑑 東海大学出版会 2000
- 中野理枝 日本のウミウシ 文一総合出版 2018
- 小野篤司 沖縄のウミウシ ラトルズ 2004
- 鈴木敬宇 ウミウシ—伊豆半島の海から一 TBSブリタニカ 2000
- 増田泰久 和歌山市加太湾産後鰓類 和歌山県生物同好会 2013
- 増田泰久 和歌山市加太湾産ウミウシ目録 和歌山県貝の会「がんがら」 2019

2019年 田辺市天神崎 ウミウシ類 年間月別出現時期

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
クロヒメウミウシ												○
ミスガイ			○	○	○	○						
ブドウガイ	○	○	○		○	○				○	○	
アカボシツバメガイ	○											
アメフラシ	○	○	○	○	○	○						
アマクサアメフラシ	○	○			○							
ミドリアメフラシ				○								
クロヘリアメフラシ			○									
クロスジアメフラシ	○											
ハマタニミドリガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イズミミドリガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
オトメミドリガイ					○							
アリモウミウシ	○	○	○	○					○	○		
ハダカモウミウシ科sp.							○					
シロフシエラガイ								○	○			
カメノコフシエラガイ						○						
ウミフクロウ				○								
ネコジタウミウシ		○										
コネコウミウシ				○								
キヌハダモドキ	○	○	○		○	○	○					○
ヒメキヌハダウミウシ			○	○					○			
オカダウミウシ	○	○	○									
キイロクシエラウミウシ	○	○	○		○	○	○					
アオクシエラウミウシ							○					
ヤマトウミウシ		○										

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ツヅレウミウシ										○		
オオツヅレウミウシ	○						○	○		○	○	
ミナミヒヨウモンウミウシ												○
カクレカンザシウミウシ	○											
クモガタウミウシ	○		○	○	○					○		
ツヅレウミウシ科sp.1	○											
ツヅレウミウシ科sp.2							○					
ツヅレウミウシ科sp.3							○			○		
アマクサウミウシ							○	○				
サラサウミウシ						○						
フジナミウミウシ												○
シロウミウシ	○									○		
セトイロイウミウシ										○		
シラヒメウミウシ		○	○	○		○					○	○
ウスイロウミウシ						○					○	
シラユキウミウシ						○				○	○	
マダラウミウシ	○		○	○								
ホンクロシタナシウミウシ						○						
ヒメリベ										○		
コマユミノウミウシ		○										
セトミノウミウシ	○											

(筆者:和歌山市新生町8-13)

参考文献

- 生物学御研究所編 相模湾産後鰓類図鑑 岩波書店 1949
- 生物学御研究所編 相模湾産後鰓類図鑑 棘遺 岩波書店 1955
- 高岡高等学校生物研究会編 富山湾産後鰓類図鑑 北隆館 1964
- 奥谷喬司編著 日本近海貝類図鑑 東海大学出版会 2000
- 中野理枝 日本のウミウシ 文一総合出版 2018
- 小野篤司 沖縄のウミウシ ラトルズ 2004
- 鈴木敬宇 ウミウシ・伊豆半島の海から TBSブリタニカ 2000
- 増田泰久 和歌山市加太湾産後鰓類 和歌山県生物同好会 2013
- 増田泰久 和歌山市加太湾産ウミウシ目録について
和歌山県 貝の会「がんがら」第14号 2019